

## ●浜の話題

- 7月下旬、当センター栽培推進部は東日本で初めてクマエビの稚エビまでの育成に成功しました。本種は房総半島以南に分布する全長 30cm にもなるクルマエビの仲間で、本県沿岸でも「アカアシ（赤足）」や「アジアカ（足赤）」と呼ばれ少量が漁獲されています。この取組みは気候変動に伴う海水温上昇などの環境変化に備え、新たな栽培の候補となる魚介類の種苗生産技術を開発するため、平成 28 年度から試験を実施してきたものです。今回得られた稚エビは3尾でしたが、今後はより多くのクマエビ種苗を確保できるよう研究を進めていきます。



クマエビの成体（左）と稚エビ（右）

- 7月16日、腰越漁協は（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受け、（公財）県栽培漁業協会より購入した全長 4～5 cm のマコガレイ種苗 5,000 尾を放流しました。当日は、同漁協の漁業研究会に所属する漁業者等 4 名が、腰越漁港西側の適地に放流しました。



マコガレイ種苗放流の様子

- 7月16日、小田原市漁協刺網部会は（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受け、マコガレイ種苗 5,000 尾を小田原地先へ放流しました。同地先でのマコガレイ漁獲事例も増えてきており、漁業者は今後の漁獲に期待していました。



放流するマコガレイ種苗



漁業者によるマコガレイ種苗の放流

- 7月21日、当センター栽培推進部は北下浦漁港において、自家生産した平均全長46mmのトラフグ種苗約18,000尾を放流しました。当センターではこのほか、7月中に横浜ベイサイドマリーナ、松越川河口、鴨居港内、走水海岸で合わせて約105,000尾の種苗を放流しました。トラフグは近年、種苗放流の効果により資源が増え、延縄漁業や遊漁の重要な対象種となっているため、今回の放流も今後の資源増大に寄与することが期待されます。



放流したトラフグ種苗

- 7月21日、宮城県金華山沖の大型定置網で尾叉長31.8cmの標識タグのついたゴマサバが再捕されました。これは当センター漁業調査指導船「江の島丸」が今年の3月12日に伊豆大島南方の「大室だし」と呼ばれる漁場で標識放流した個体で、産卵後に索餌回遊で東北海域に北上したものと考えられます。当センターでは、毎年伊豆諸島海域や東京湾等でさば類の標識放流を実施していますので、標識のついたさば類が採捕されましたら、当センター栽培推進部あるいは地区担当の普及指導員にご連絡ください。



再捕された標識タグ（左上拡大図）のついたゴマサバ

- 7月30日、小田原市漁協の片浦地区の漁業者が、江之浦漁港周辺にアミノ酸を混入したコンクリー

ト板を藻場礁として試験設置しました。このコンクリート板は、真鶴町のコンクリート業者から提供を受けたもので、今後はカジメ等の海藻が付くかなど経過を観察していきます。



設置するアミノ酸混入コンクリート板等      海底に設置されたアミノ酸混入コンクリート板

## ●お知らせ

○ 8月17日（月）、神奈川県および県漁連は「かながわ漁業就業促進センター」の令和2年度研修生の募集を開始しました。これは漁業を経験したことのない人などを対象に、今年10月から来年3月まで約半年間研修を実施して、新規就業をサポートするものです。研修内容は漁業者として必要な基礎知識を習得するための座学研修や、現役漁業者のもとで実際に技術を学ぶ漁業実習のほか、漁業に必須な1級小型船舶免許と第3級海上特殊無線免許の取得もサポートします。参加を希望される方は、県水産課のHP（下記URL）で詳細を確認のうえ、9月15日（火）までに県漁連まで申請書を郵送してお申し込みください。

・かながわ漁業就業促進センター案内URL：

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/kanagawagyogyoshugyo.html>

・問い合わせ先：（申込先・運営）神奈川県漁業協同組合連合会 指導部 TEL 045-773-8877

（委託元）神奈川県環境農政局農政部水産課 水産企画グループ TEL 045-210-4542